

事業再評価調書（初回）

事業種別 事業名	[街路] 長柄堺線	
担 当	建設局 道路部 街路課 （電話番号：06-6615-6753）	
1 再評価理由	国庫補助事業を除く事業で事業開始年度から起算して5年目の年度において継続中のもの	
2 事業概要	①所在地 図1参照	阿倍野区阿倍野筋2丁目～阿倍野区阿倍野筋3丁目
	②事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は本市の都心部を南方に貫く主要幹線道路であり、主要ターミナルである天王寺駅へのアクセス道路である。 ・大阪市地域防計画において広域・重点緊急交通路及び避難路として位置づけられており、防災上も重要な路線である。また、当該区間は、道路の中央部を阪堺電気軌道上町線が通行する両側2車線の道路であり、現在、阿倍野市街地再開発事業において両側3車線の道路整備が進められている。 ・阿倍野市街地再開発事業と連携した本事業区間における電線共同溝の整備と現道拡幅により、災害時における広域避難場所（阿倍野再開発エリア）へのアクセス性の向上並びに緊急車両等の通行、歩行者等の安全性の確保を図る。
	③事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・道路整備（拡幅） 延長 L=190m 幅員 W= 40m(両側4車線 歩道有) (現道幅員 W=34～40m)
3 事業の必要性の視点	①事業を取り巻く社会経済情勢等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線の整備により都心部の機能的な道路ネットワークを形成し、アクセス性の向上と緊急時の避難路等として必要性が依然として高い。 ・当該区間の周辺では阿倍野市街地再開発事業による面整備が実施されており、幹線道路の交通ネットワークの確保、歩行者等の安全性の確保の観点から、事業の必要性は依然として高い。 ・近年、本市を取り巻く財政状況が非常に厳しいことから、事業中路線において、選択と集中の観点から、重点的に投資を行う路線を選定し、事業を進めている。
	②定量的効果の具体的な内容	[効果項目] <ul style="list-style-type: none"> ・交通円滑化効果 <ul style="list-style-type: none"> ①走行時間短縮便益 ②走行経費減少便益 ③交通事故減少便益 ・歩行の安全性と快適性の向上 [受益者] ・市民 ・道路利用者 ・地域社会 ・地域経済
	③費用便益分析 図2参照	[算出方法] <ul style="list-style-type: none"> ・費用便益分析マニュアル（平成20年11月 国土交通省 道路局 都市・地域整備局）に示された手法に準じて実施 ・道路投資の評価に関する指針（案）（平成12年1月 道路投資の評価に関する指針検討委員会編）に示された手法に準じて実施 [分析結果] ・費用便益比 B/C=5.39 （総便益B：28.9億円、総費用C：5.4億円）
	④定性的効果の具体的な内容	[効果項目] <ul style="list-style-type: none"> ・機能的な道路ネットワークの充実 ・交通流の円滑化に伴う周辺環境の改善 ・災害時における避難路及び災害遮断帯などの防災空間の確保 ・安全で快適な歩行者空間の確保 ・沿道土地利用の高度化 ・供給処理施設（水道、ガス、電気等）の収用空間の確保 [受益者] ・市民 ・道路利用者 ・地域社会 ・地域経済
	⑤事業の必要性の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、本市の都心部を南方に貫く主要幹線道路である。また、主要ターミナルである天王寺駅へのアクセス道路であり、当該区間の周辺では阿倍野市街地再開発事業による面整備が実施されており、幹線道路の交通ネットワークや緊急交通路の確保、歩行者等の安全性の確保の観点から、事業の必要性は高い。

評価
A～C

		事業開始時点 (平成24年6月)	再評価時点 (平成28年3月)
4 事業の実現見通しの視点	①経過及び完了予定	事業採択年度 平成 24年度 着工年度 平成 24年度 完了予定年度 平成 28年度	事業採択年度 平成 24年度 着工年度 平成 24年度 完了予定年度 平成 33年度
	②事業規模	用地取得： 402m2 道路整備： 7,600m2	用地取得： 402m2 道路整備： 7,600m2
	うち完了分	—	用地取得： 222m2 道路整備： 0m2
	進捗率 図3参照	—	用地取得率 55% 工事進捗率 0% (本市所管用地・先行取得用地を含む面積ベース)
	③総事業費	5.5億円	5.5億円
	うち既投資額	—	0.9億円
	進捗率 図4参照	—	15%
	④事業内容の変更状況とその要因	—	
	⑤未着工あるいは事業が長期化している理由	・財政状況が非常に厳しいため、事業中路線においては、選択と集中の観点から、重点的に投資を行う路線を選定し、事業を進めている。本路線は、重点的な投資を行う路線に位置付けていないが、阿倍野市街地再開発事業と連携した整備を進める必要があることから重点的に予算を確保し事業を実施しているが、関係機関等との調整に時間を要しているため、長期化している。	
	⑥コスト縮減や代替案立案の可能性	・特になし	
⑦事業の実現見通しの評価	・用地取得率は55%であるが、残りの用地取得に必要な件数が少ないため、買収が終われば集中的な工事实施が可能となり、完了年度での完成が見込める。	評価 B	
5 事業の優先度の視点の評価	<p>[重点化の考え方]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地取得率が高く、整備効果が早期に発現できる路線を「重点整備路線」、地震時における重点密集市街地の被害を軽減するための防災環境軸の核となる路線を「完了期間宣言防災路線」として位置付け、完了時期を宣言し、重点的に財源を投入する。重点整備路線以外のその他の路線のうち、進捗率が高い、あるいは事業遅延による影響が大きい路線については、予算の範囲内で継続的に事業実施を行うものとし、それ以外の路線については、限定的な事業実施にとどめる。 ・本路線は、重点整備路線には位置付けられていないものの、阿倍野再開発事業と連携して整備を進める必要がある。 <p>[事業が遅れることによる影響]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・阿倍野再開発事業と連携した整備ができない。 ・地元住民からの早期整備要望に答えることができない。 ・歩行空間の確保による歩行者の安全安心の享受や、沿道環境改善による周辺地域への事業効果の享受が遅れる ・都市計画法第65条により、長期にわたって制限をかけられることとなる。 		評価 A
6 特記事項	・特になし		
7 対応方針(案)	「事業継続(A)」		
(理由)	・本路線の整備は、都心部における機能的・効率的な幹線道路ネットワークを形成し、アクセス性の向上と歩行者等の安全・安心な通行空間を確保するため必要な事業である。また、阿倍野市街地再開発事業と連携した整備を進める必要があり、重点的に予算を確保し、阿倍野市街地再開発事業完成時の概成及び平成33年度の事業完了をめざすことから「事業継続(A)」とする。		
8 今後の取組方針(案)	・本路線は、道路ネットワークの形成を図るため、阿倍野再開発事業と連携した整備が必要な路線として予算を確保し、用地取得完了後、集中的に工事を実施するなど、完了予定年度での完成に向けて重点的に事業を実施する。		

阿倍野区阿倍野筋2丁目～阿倍野区阿倍野筋3丁目

对象事业 位置图



図2 費用便益分析の概要

(3事業の必要性の視点 ③費用便益分析)

便益 (単位：億円)

走行時間短縮	0.2
交通経費減少	0.0
交通事故減少	0.0
歩行の安全性 ・快適性の向上	1.5
合計 (初年便益)	1.6
便益総額の 現在価値	28.9

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	5.5
維持管理費 (単純合計)	0.8
投資総額の 現在価値	5.4

社会費用便益比 (B/C)	5.39
------------------	------

注) 便益額、費用額については単位(億円)下一桁を四捨五入しているため、合計値の端数が合致しない場合もある。

計画道路と競合道路の概要

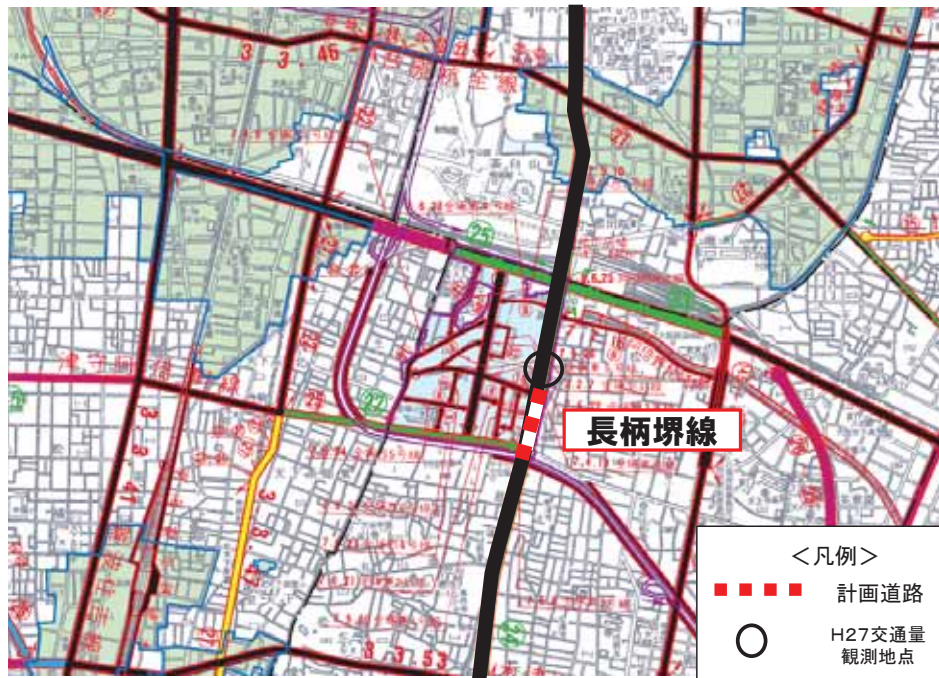


図3 進捗状況

(4 事業の実現見通しの視点 ②事業規模)

残事業の内容

●用地取得 7件 (180㎡) ●道路工事(延長190m、面積7,600㎡) ●残事業費 約4.6億円

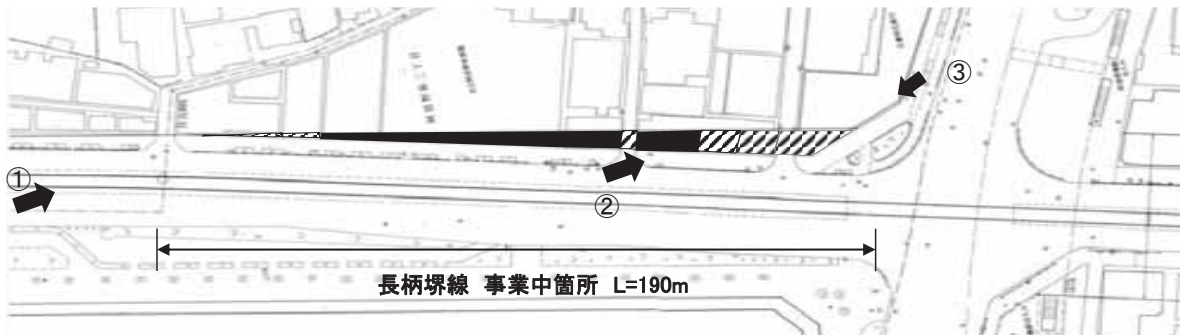
①



②



③



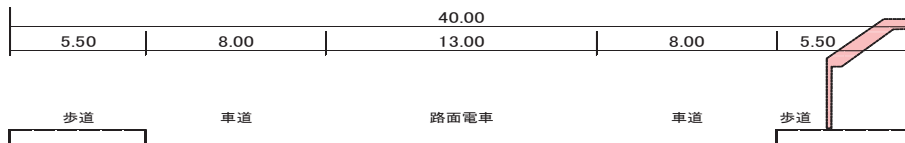
用地取得率: 55% (本市所管用地含む面積ベース)

工事進捗率: 0% (面積ベース)

事業費ベース進捗率: 15%

計画幅員

40.00







凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所

図4 進捗率の推移

(4 事業の実現見通しの視点 ③総事業費)

